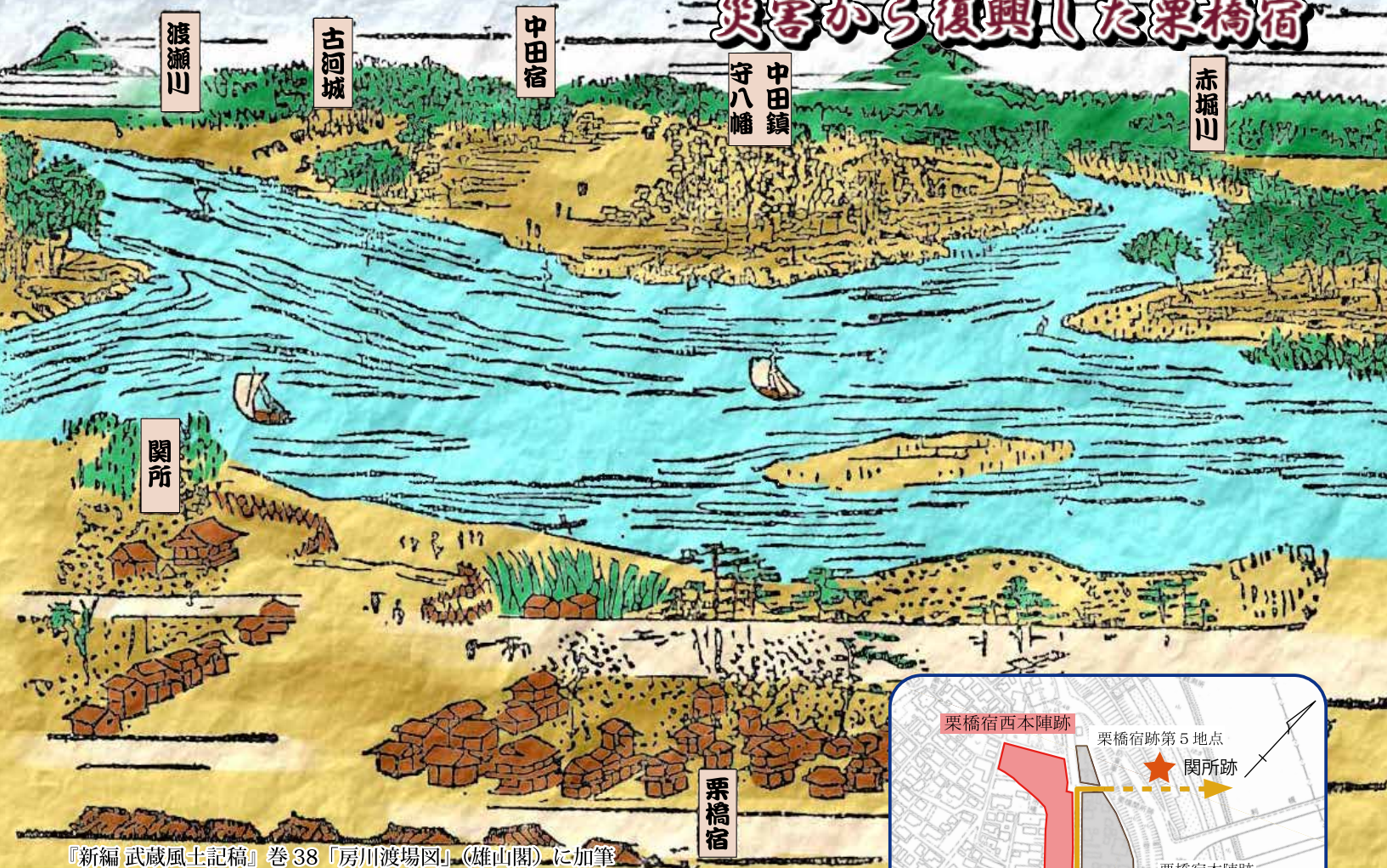


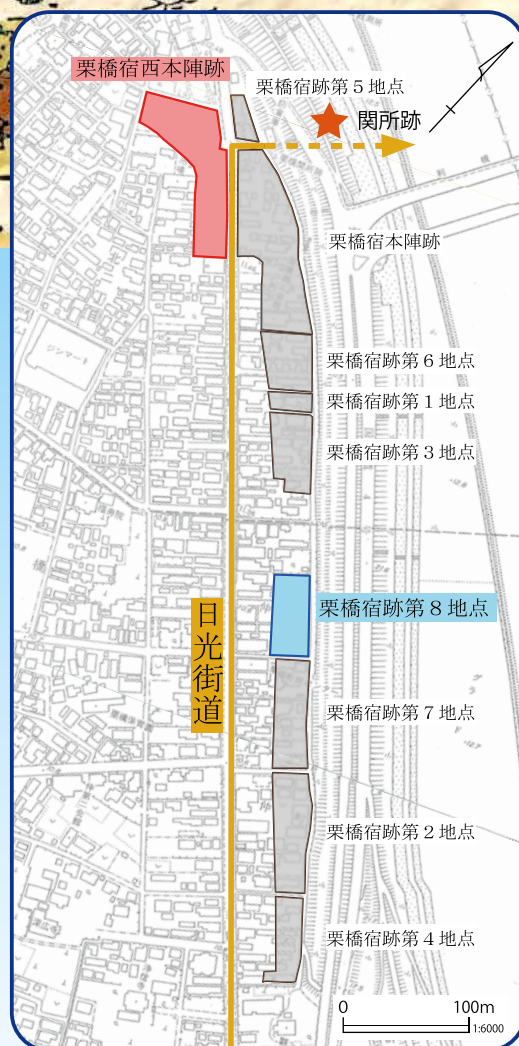
久喜市栗橋

栗橋宿西本陣跡・栗橋宿跡

災害から復興した栗橋宿



『新編 武蔵風土記稿』巻 38「房川渡場図」(雄山閣)に加筆



公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団では、利根川の堤防強化工事に伴い、久喜市(旧栗橋町)で江戸時代の日光街道栗橋宿を発掘調査をしています。今年度は、栗橋宿西本陣跡及び栗橋宿跡第 8 地点を調査しています。

今回の調査では、大名が泊まった本陣につぐ格式の脇本陣跡が発見されました。そのほかにも、昔の宿場内の生活や、洪水や大火にみまわれた様子などが明らかになってきました。災害から復興した街並みや建物の配置、人々の暮らしについてご案内します。

主催 埼玉県教育委員会
公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
共催 国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所
久喜市教育委員会

栗橋宿西本陣跡

栗橋宿西本陣跡では、幕末期^{ちやうにん}の町人のすまいの跡を調査しています。土地を区画^{かべつち}した溝^{かわら}や建物跡、焼けた壁土や瓦、材木を廃棄^{はいき}した穴^{どこう} (土壙) などが見つっています。



▲砥石がついた木材



▲焼印「翁」が押された木の板

①池状の遺構

建物跡の裏手にある人工の池です。洪水によって砂が入り、埋まっていた。



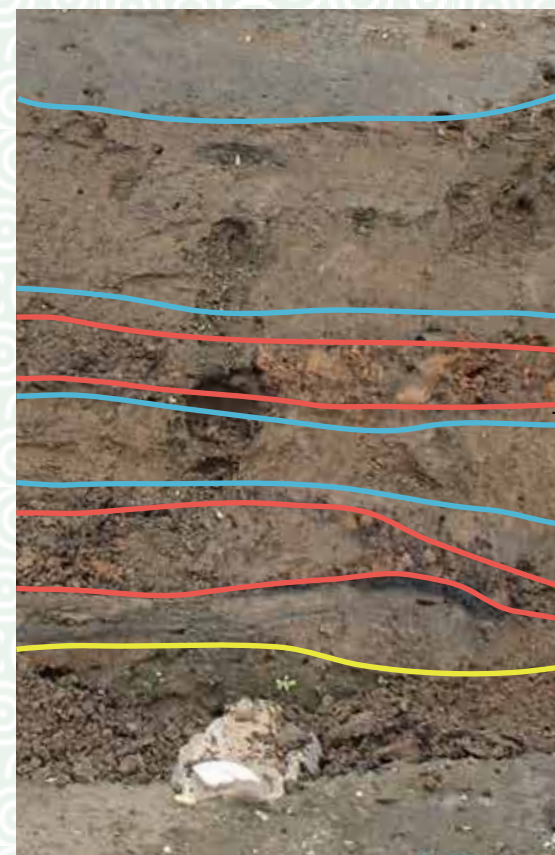
②建物の基礎の跡

脇本陣と考えられる建物の地業跡^{じぎよう}です。他の建物跡よりも規模が大きく、瓦片や材木を用い、頑丈に突き固められていました。

※地業とは建物を建てる時に行う基礎工事 (整地や地固め作業) のことです。

③廃棄土壌

主に建築廃材が捨てられていました。焼印の押された木の板や、砥石が出土しました。焼けた木材も捨てられていました。



◀ 洪水層

◀ 第4の地面

◀ 火災後の整地層
第3の地面

◀ 洪水層

◀ 第2の地面

◀ 火災後の整地層

◀ 第1の地面



文字が書かれた木の板

西本陣跡では、文字の書かれた木片がいくつも出土しています。



沼

道路跡

八坂神社

0 10m 1:300

災害と復興の歴史

調査区の土層を観察すると、水害や火災などの災害が複数回起こり、そのたびに何度も復興してきたことがわかります。

凡例

- 土壙
- 埋桶
- 焼土・炭の土壙
- 建物跡
- 溝
- 井戸
- 池

杭列
木樋

日光街道

至栗橋関所



④建物跡・土壙

火事で焼けた壁土や瓦、陶磁器を廃棄した場所 (写真奥の穴) に、新しく建物を建てています。白線は建物の基礎範囲です。

栗橋宿跡第8地点

栗橋宿跡第8地点では、土地を区画した幕末以降の溝跡や杭列、建物跡、多くの土壌などが見つかっています。

日光街道



①砂に埋もれた土壌

洪水によって砂が入り込んだ跡です。砂のほかにも、細かい木片が入り込んでいました。



②建築廃材が捨てられていた土壌

屋根の材料として使われていた木の板やスギの皮、瓦が捨てられていました。



凡例

- 土壌
- 埋桶
- 建物跡・基礎
- 溝
- 堀・杭列
- 木樋
- 区画復元線

③木樋

木の板で組まれた排水路です。
この先にある集水枡と繋がっています。



④埋桶

調査区の各所に大小さまざまな木製の桶が埋められていました。

